

源氏に 愛されたい 女たち

瀬戸内寂聴



瀬戸内寂聴—1922年、徳島県に生まれる。1960年に評伝『田村俊子』で田村俊子賞を、1963年に小説『夏の終り』で女流文学賞を受賞。1973年に得度し、翌年京都嵯峨野に寂庵を構える。1992年に小説『花に問え』で谷崎潤一郎賞を受賞。源氏物語に関するものでは『わたしの源氏物語』『女人源氏物語(全5巻)』などの著書がある。

講談社+α文庫 ^{げんじ あい おんな} 源氏に愛された女たち

^{せとうちやくちう} 瀬戸内寂聴 ©Jakutyô Setouti

本書の無断複写(コピー)は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

1993年9月17日第1刷発行

発行者———野間佐和子

発行所———株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21 〒112-01

電話 出版部(03)3947-2287

販売部(03)5395-3626

製作部(03)5395-3615

デザイン———鈴木成一デザイン室

カバー印刷———凸版印刷株式会社

印刷———慶昌堂印刷株式会社

製本———株式会社国宝社

落丁本・乱丁本は小社書籍製作部あてにお送りください。

送料は小社負担にてお取り替えます。

なお、この本の内容についてのお問い合わせは

生活文化第三出版部あてにお願いいたします。

Printed in Japan ISBN4-06-256001-1 (生活文化三)

定価はカバーに表示してあります。

源氏に愛された女たち

瀬戸内寂聴

目次

光源氏をめぐる人物の系図 14

内裏略図 39

第一章 桐壺更衣きりつばのこうい——男をとりこにする女

時代を超えた愛の機微きび 19

「桐壺」の巻は光源氏ひかるけんじの出発点 23

いじめと嫉妬しつとと羨望せんぼうと 27

桐壺は男にとって最高の女性 29

第二章 藤壺ふじつば——欠点のない女

亡き母を偲しのぶあまり 37

宿命的な初恋 41

継母ママははと男と女の関係に 43

最初はレイプのかたちで 45

つゝのる慕情と罪の意識 47

不義の子を産む強い女 50

聡明なるがゆえの不幸 53

第三章 空蟬うつせみ——不倫する女

不幸の影を背負った人妻 59

さまざまな愛を語る「雨夜あまよの品定め」 61

「中流階級にいい女がいる」 63

千年前も今も、男女のことは変わらない 66

プレイボーイ光源氏の好奇心と高慢さ 70

不美人だが情感のある女 74

十二年後の再会 77

紫式部むらさきしきぶ自身が投影されて 79

第四章

夕顔ゆうがお——包容力のある女

可憐かれんで優しく従順な女 85

天性の娼婦性 88

男の本音がでている 92

第五章

葵あおいの上うえ——年上の女

政略結婚の不幸 97

壮絶な女の闘い 100

第六章

六条御息所——知的な女

愛人の嫉妬と妄執の悲しさ 104
組みあわせが悪いための不幸 105

申し分ない最高の貴婦人 111

くやしき、ねたみの虜となつて 114

一夜を共にして、ますます苦悩は深まり

117

あまりにも人間的な女 120

第七章

紫の上——女らしい女

理想的な女性 125

自分の思いどおりの女として育て 127

正妻になれず、子どももできず
男が最後に戻っていける女
133

130

第八章

末摘花^{すえつむはな}——待つ女

不美人のヒロイン

139

純真で高貴でおおらか

141

顔は不器量だったが

144

男の心をとらえた純情さ

147

第九章

朧月夜^{おぼろつきよ}——奔放な女

色っぽく美しい女

153

光源氏が結婚しなかった理由

156

障害がある恋に燃えて 158

出家して男を見返す 160

第十章 花散里^{はなちるさと}——控えめな女

妻にするには理想的な女 167

落ち目になった男に変らずに尽くし 170

セックスのない夫婦 172

やはり女の悲しみはあつたはず 174

第十一章 明石^{あかし}の君^{きみ}——幸運な女

気丈だが謙虚な女 181

女の子を産んだ幸運 184

広大なハーレムの中で愛された女 187
母として生きることを選び 189

第十二章 玉鬘たまかざら——スキのない女

数奇な運命をたどった女 195

田舎娘がみるみる洗練されて 198

逆境に置かれても前向きに生きて 203

『源氏物語』の中の屈指の美しいシーン 207

無骨な男に無理やり 210

聡明すぎてあわれがない 214

第十三章

女おんなさん三みの宮みや——無邪気な女

二十六歳年下の妻

忍びよる不幸の影 222 219

不倫がついに発覚し 224

不義の子を抱く光源氏の宿命

227

第十四章

源げん典の侍いし——色好みのすけの女

六十歳に近い女房にようぼう 233

色好みのおばあさん 235

男の見栄と好奇心 238

色好みは男だけに限らない 241

第十五章

雲居雁くもいのかり——家庭的な女

いとこ同士の幼い恋 247

理想的な結婚相手 250

善男善女の結婚生活の行方

人の心は永遠ではない 256

251

第十六章

大君おおきぎみ——かたくなな女

息子かおる薫の恋と青春の物語 261

愛の告白を受け入れない女

頑固でかたくなな生きかた

自己愛が強すぎて 269

266 264

第十七章

浮舟うきふね

——愛に苦悩する女

亡き恋人の面影

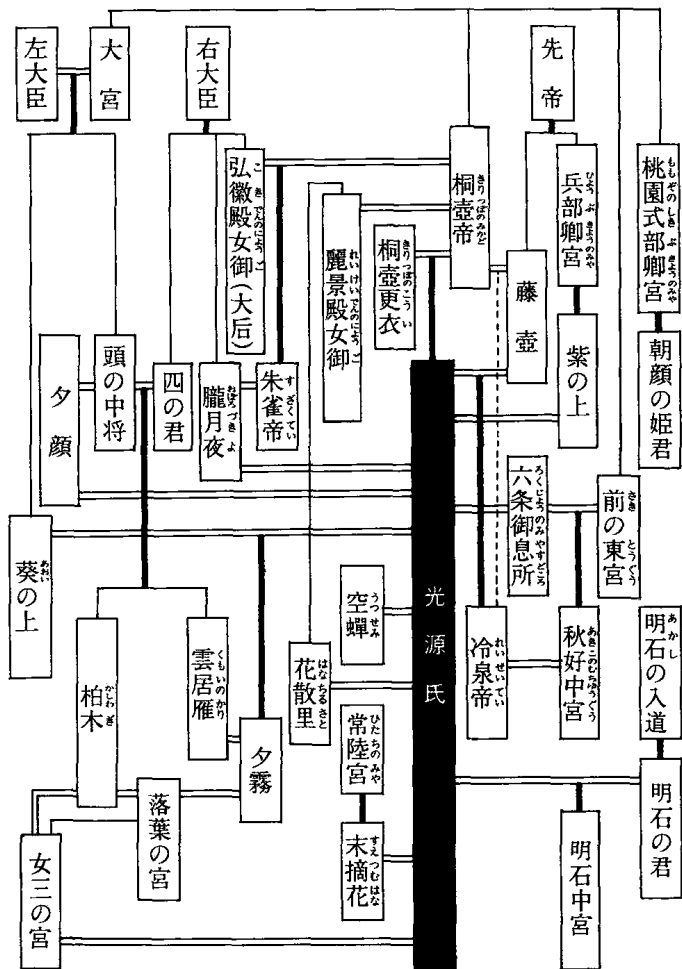
275

隠れ家で昼間から愛しあい
二人の男から愛される苦悩
紫式部がたどりついた結論

284 280 277

源氏に愛された女たち

光源氏をめぐる人物の系図



- 親子の関係
 — ぎょうだいの関係
 — 夫婦・恋人の関係

